東日本大震災から10年―改めてスポットを当てる

東北への修学旅行

今年は2011年3月11日に発生した東日本大震災から10年となる節目の年。そこで、東北への修学旅行に改めて注目し、学習地としての東北の魅力を探った。前半パートは、東北観光推進機構の紺野純一・専務理事推進本部長からの寄稿により「東北教育旅行の魅力と現状」を紹介。後半パートでは、被災した岩手・宮城・福島3県でのお薦めの教育旅行コースをJTB、近畿日本ツーリスト関東、日本旅行の大手旅行会社から提案してもらった。なお、コース内容は「震災学習」に限らず、歴史・文化、自然など幅広い分野とした。

寄稿

「だからこそ学ぶ」

東北教育旅行の魅力と現状

東北観光推進機構
専務理事推進本部長
紺野純一

◆2011年3月に発生した東日本大震災の打撃

2021年、東北は東日本大震災より10年の節目の年を迎えた。震災直後は、地震、津波、原発事故という未曽有の災害で観光を含めたインフラが大きなダメージを受けた。教育旅行においても風評被害で厳しい状況が続いた。

現在、東日本大震災からの復興途上であるが、全国の皆さまによる温かい応援や多大なご支援をいただき、ここまで復興することができた。「観光を通じた支援」など、多種多様なご支援をいただき、改めて御礼を申し上げたい。

◆教育旅行需要の回復状況

19年度は、震災前と比べ9割程度まで回復した。20年度は、震災10年や、復興五輪とされる東京オリンピック・パラリンピックを契機として、東北教育旅行の更なる飛躍の年とするべく準備をしてきたが、新型コロナウイルス感染症の発生により、東北への来訪者は大きく落ち込んだ。その後も再拡大により東北観光は大きな打撃を受けており、21年度も厳しい状況が続いている。

◆東北3県を舞台にした教育旅行の魅力

東北3県での学びのテーマは、東日本大震災から学ぶ「震災・防災・減災学習」と東北の歴史・文化や四季に根差した「東北ならではの探究学習」になる。

震災・防災・減災学では、震災直後は「震災の恐ろしさ」や「復興に進む東北の姿」など「震災学習」が中心であったが、現在は「震災遺構」や「語り部」などが各地で整備され、受け入れ態勢が整ってきた。「なぜ、命が助かったのか」などの経験を生かした「防災学習」や、万が一の震災に備える「減災学習」などのニーズも増えている。10年の月日を経て、東北でしかできない震災・防災・減災の学びも進化している。

「探究学習」については、東北にはたくさんの探究できる学習素材に満ちている。「自然・環境」「歴史・文化」「農村生活体験」など東北にて探究することは、子どもたちの「なぜだろう」の疑問に対して、東北で〝本物にふれる〟ことができることが特色である。子どもたちが課題を設定し、疑問を解決し、答えを導く、真の「学びの場」が東北各地にある。

◆教育旅行に関する最新情報

21年7月27日「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録されたのは、大変明るい話題である。農耕に移行せず、狩猟などを基盤としたまま定住した縄文時代の人類の生活実態を示す貴重な物証が世界的に認められた。また「平泉―仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」も世界遺産登録から10年を迎える。

東北での学びについては、農村漁村での民泊や生業体験、SDGsに関連した体験活動を東北で実施する学校も増えてきており、福島県の「ホープツーリズム」、宮城県の「みやぎ感DO!プログラム」、岩手県の「生きる力を育む感動体験」など、「新しい教育プログラム」が有名だが、本堂「土庭園」が有名だが、本堂での座禅体験が子どもたちの情操教育に最適だ。

初日最後の見学地は宮沢賢治記念館。宮沢賢治は1896年、当時の稗貫郡花巻川口町、現在の花巻市で生まれた詩人で童話作家。37年の生涯の中で、「銀河鉄道の夜」「風の又三郎」など、多くの作品を世に残した。

記念館には賢治直筆の原稿をはじめ、ゆかりの品々がここで生徒と受け入れ農家が初めて対面し、各家庭が3～5人ずつ、生徒を受け入れる。

受け入れ先の農家では、家庭ごとにさまざまな体験を行う。農作物の収穫をはじめ、作物を袋詰めしてJAの直売所に卸したり、「餅食文化」が残るこの地ならではの餅つき体験をしたり。

夜は取れたての農産物を使ってみんなで料理を作る。畜産農家では地元ブランド牛などを使ったバーベキューを楽しんだり。都会ではめったにできない体験を楽しむ。

最終日の離村式まで、家族の一員になった気分で農家体験を行う。1日ほどの体験でも、最終日には受け入れてくれた家族との別れを惜しんでみんなが涙する。入村式とは全く違う表情になる。

東日本大震災で岩手の沿岸部が大きな被害を受けた。震災学習というキーワードで、最近は沿岸部を巡る新たなコースも生まれてきている。内陸部と沿岸部は車で約2時間かかるため、2泊3日で両方を網羅するのはなかなか難しいが、工夫次第では可能かもしれない。

県の東京事務所から、修学旅行に関する情報を密にいただいている。県観光のポータルサイトには、ほぼ全ての情報が網羅されている。県の修学旅行に対するバックアップ体制が素晴らしいことを最後に触れておきたい。

◆教育旅行需要回復に向けたシナリオ

現在「東北教育旅行ブランド化5カ年計画」を進めている。「東北で学ぶことは、生きる力を育むこと」をテーマに、「東北ならではの探究学習」と「震災・防災・減災学習」について、学習プログラムを磨き上げている。

3年目の今年度は、各県の誘致部会との連携をさらに強化しており、この磨き上げたコンテンツを武器に、各種セミナーで東北教育旅行の魅力を発信し、東北の強みをPRしている。

また、デジタル化の向上に取り組み「東北まなび旅」のホームページの強化に努めてきた。「東北まなび旅」で検索が可能であり、東北への教育旅行情報を集約したプラットフォームとして、さまざまな情報を掲載している。

特に「モデルコース」は、20年度一番アクセス数の多い、人気のページであり、現在126コース掲載している。行程表はパワーポイントでダウンロードし、活用することができる。

「学習体験スポット」も現在542件掲載しており、コンテンツの確認以外に、印刷用としても抽出することも可能である。

「探究学習・SDGsプログラム」に関しても、さらなるコンテンツ磨き上げに取り組み、195件コンテンツを作り上げた。

「お知らせ」のページでは、今回新たに特設した「セミナー資料」「新型コロナウイルス関連情報」「各自治体支援施策」など旬な情報や、「教育副読本」「学習動画」など学習教材を「学校関係者」「旅行会社」向けに発信をしている。

その他、多種多様な情報を掲載しており、今後も東北の教育旅行に関するさまざまなニーズに対応していきたいと考えている。

◆地域の観光業者に伝えたいこと

新型コロナウイルスの感染拡大は既に1年半以上に及び、観光産業にとっては大変厳しい状況が続いているが、ここが踏ん張りどころだ。旅館・ホテルはまさに、地域の観光を引っ張る中核的存在だ。東北には豊かな自然や、縄文時代を基層にした文化や生活様式などの魅力にあふれており、DMOなど地域一体の体制や広域的な連携により、それぞれの地域が持つ良さ、独自の文化をしっかり守り、ウイズコロナ・ポストコロナ時代に対応した受け入れ態勢や観光コンテンツ構築に取り組むことが大切である。

東北観光推進機構でも21年度から第5期中期計画をスタートしている。東北広域での滞在型コンテンツと宿泊を組み合わせ、ロングステイを促進する「東北の新しい旅行スタイルの創出」や、域内のデータを一元化し共通のマーケティングツールを構築する「東北観光DMP（データマネジメントプラットフォーム）」などの広域の取り組みを進めていく。また、東北デスティネーションキャンペーン（DC）を通じて生み出された広範な企業、組織の皆さまとの幅広いネットワークやさまざまな取り組みを今後の東北観光のレガシーとして生かしていく。

◆学校へ向けたメッセージ

東北は教育旅行のコンテンツ、体制が充実しているとともに、新幹線ネットワークや高速道路など交通網の整備が進んでいる。

昨年は、コロナ禍による各学校の修学旅行先が変更になり、「東北」を初めて経験いただく学校が大幅に増えた。学校や旅行会社の皆さまにとっても、大変厳しい状況の中で東北への教育旅行を選択していただいたことに、感謝している。

本年、東北では、より「安全・安心」な旅行および「衛生管理」を心掛け、お越しいただく皆さまに、安心して東北にて教育旅行を実施いただけるように取り組み、「学びの場としての東北」の魅力を発信したいと考えている。

ぜひ、東北へお越しいただきたい。

東北3県　修学旅行モデルコース（2泊3日）提案

農家民泊

花巻市では農家民泊の受け入れ団体「はなまきグリーン・ツーリズム推進協議会」（事務局＝JAいわて花巻企画課）を組織。体験に関するさまざまな相談を受け付けている

げいび渓

北上川の支流、砂鉄川の長さ約2キロにわたる渓谷。奇岩が連なる高さ50メートルほどの岸壁と岸壁の間を小舟で巡る

中尊寺

比叡山延暦寺の高僧慈覚大師により開かれた古刹。大規模な造営は奥州藤原氏の初代、清衡により行われた。平安時代の建築、工芸技術の粋を集めた金色堂が有名

宮沢賢治記念館

花巻市生まれの詩人で童話作家、宮沢賢治の資料館。直筆の原稿など、ゆかりの品々が数多く展示されている

行程表

1日目	7：56	東京駅出発（東北新幹線）
	10：07	一ノ関駅着
	10：35	一ノ関駅発（貸し切りバス）
	11：05	げいび渓
	13：15	中尊寺（昼食、見学）
	16：10	宮沢賢治記念館
	17：30	南花巻温泉峡の旅館着
2日目	8：30	旅館出発（貸し切りバス）
	9：00	JAいわて花巻（入村式）
		各農家着
3日目		各農家出発（昼食後、農家送迎）
	12：30	JAいわて花巻（離村式）
	13：15	JAいわて花巻出発（貸し切りバス）
	13：45	新花巻駅着
	14：20	新花巻駅出発（東北新幹線）
	17：24	東京駅着

岩手県（日本旅行）

地元の人と触れ合える農家民泊受け入れが充実

岩手には歴史、文化、自然と、学びのコンテンツが多い。さらに地元の人との触れ合い。農家民泊の受け入れ態勢が充実している。

2泊3日の修学旅行では、農家での宿泊体験をメインに、世界遺産の中尊寺（平泉町）や宮沢賢治記念館（花巻市）の見学、げいび渓（一関市）の舟下りなど、岩手の歴史、文化、自然を学び、体感できる旅を提案したい。東京の公立中学校で、4クラス、140人ほどの生徒による秋の修学旅行を想定する。

1日目は朝8時ごろの新幹線で東京駅を出発。岩手県の玄関口、一ノ関駅に同10時台に到着する。

一ノ関から専用バスに乗り換え、県内の観光地を巡る。まず、体験するのはげいび渓の舟下りだ。げいび渓は北上川の支流、砂鉄川の長さ約2キロにわたる渓谷。高さ50メートルほどにそびえる岸壁と岸壁の間を小舟で巡る。岸壁は「世にもまれなる景色」といわれ、奇岩が連なる独特の景観を作りだしている。ここで自然を感じながら、およそ90分の舟下りを楽しむ。

屋根付きの舟もあり、雨天時も基本的に運航するが、荒天時は「えさし藤原の郷」（奥州市）に訪問地を切り替える。えさし藤原の郷は、1993～94年に放送された大河ドラマ「炎立つ」のロケ地となったテーマパーク。約20ヘクタールの広大な敷地内に、平安時代にこの地を治めた奥州藤原氏ゆかりの建築物など120棟ほどが再現されている。

中尊寺や宮沢賢治記念館も

げいび渓の後に訪れるのは、2011年、ユネスコの世界文化遺産に登録された「平泉―仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群―」のメインとなる中尊寺だ。850年、比叡山延暦寺の高僧慈覚大師により開かれた古刹だが、大規模な造営は12世紀に入り、奥州藤原氏の初代、清衡により行われた。中でも金色堂は、平安時代の建築、工芸技術の粋を集めた貴重な文化財だ。

時間があれば、同じ世界遺産の構成要素の一つ、毛越寺（平泉町）を訪ねたい。特別名勝に指定される「浄土庭園」が有名だが、本堂での座禅体験が子どもたちの情操教育に最適だ。

初日最後の見学地は宮沢賢治記念館。宮沢賢治は1896年、当時の稗貫郡花巻川口町、現在の花巻市で生まれた詩人で童話作家。37年の生涯の中で、「銀河鉄道の夜」「風の又三郎」など、多くの作品を世に残した。

記念館には賢治直筆の原稿をはじめ、ゆかりの品々が数多く展示されている。

この日は花巻南温泉峡（花巻市）の旅館に宿泊する。

2日目は丸1日、花巻市内の農家体験となる。まず、宿舎から入村式会場（JAいわて花巻）にバスで移動。ここで生徒と受け入れ農家が初めて対面し、各家庭が3～5人ずつ、生徒を受け入れる。

受け入れ先の農家では、家庭ごとにさまざまな体験を行う。農作物の収穫をはじめ、作物を袋詰めしてJAの直売所に卸したり、「餅食文化」が残るこの地ならではの餅つき体験をしたり。

夜は取れたての農産物を使ってみんなで料理を作る。畜産農家では地元ブランド牛などを使ったバーベキューを楽しんだり。都会ではめったにできない体験を楽しむ。

最終日の離村式まで、家族の一員になった気分で農家体験を行う。1日ほどの体験でも、最終日には受け入れてくれた家族との別れを惜しんでみんなが涙する。入村式とは全く違う表情になる。

東日本大震災で岩手の沿岸部が大きな被害を受けた。震災学習というキーワードで、最近は沿岸部を巡る新たなコースも生まれてきている。内陸部と沿岸部は車で約2時間かかるため、2泊3日で両方を網羅するのはなかなか難しいが、工夫次第では可能かもしれない。

県の東京事務所から、修学旅行に関する情報を密にいただいている。県観光のポータルサイトには、ほぼ全ての情報が網羅されている。県の修学旅行に対するバックアップ体制が素晴らしいことを最後に触れておきたい。

飯田大輔氏

日本旅行多摩教育旅行支店課長。2004年入社後、東京教育旅行支店に配属。11年から現在の支店に。入社から現在まで教育旅行営業一筋。「修学旅行は学校生活で最も思い出に残る行事。『楽しかった』という生徒たちの言葉が私にとって励みになっている」。